

特集

角膜移植の新しい潮流

序 論

根岸一乃*

角膜移植は、視機能を回復するための重要な手術であり、眼科領域において長い歴史を持つ治療法のひとつである。近年、技術の進歩により、より安全で効果的な治療方法が確立されつつあり、患者の視力予後も飛躍的に向上している。本特集では、角膜移植の現状と最新の技術革新を多角的に取り上げ、今後の方向性まで含めてエキスパートの先生方にご解説いただいた。

片岡花音先生、山口剛史先生（東京歯科大学市川総合病院）からは、アイバンクの現状と問題点についてご解説いただいた。すなわち、日本においてはドナー角膜の供給が依然として不足しており、国内の移植需要に応えるには、アイバンクの活動強化や提供意思確認の促進、病院ネットワークの構築が求められているという現状と今後の展望についてお示しいただいた。

平山雅敏先生（慶應義塾大学）には、角膜上皮の再生医療のなかから、主に角膜輪部機能が障害される角膜輪部幹細胞疲弊症（limbal stem cell deficiency：LSCD）に対し、角膜の高い透明性

を担保しながらその機能を再建する幹細胞医療とバイオエンジニアリング技術の進展についてわかりやすくまとめていただいた。

家室 怜先生、相馬剛至先生（大阪大学）には、角膜内皮移植 DSAEK/DMEK の手術適応、術前評価、手術手技、術後合併症等についてご解説いただいた。

上野盛夫先生（京都府立医科大学）には、培養ヒト角膜内皮細胞を用いた角膜内皮再生医療について最新の知見をお示しいただいた。

福戸敦彦先生、近間泰一郎先生（広島大学）には、全層角膜移植と角膜内皮移植の合併症とその対処法を中心にご解説いただいた。

角膜移植の技術の進展とともに、アイバンクの運営改善や移植後の管理体制の強化が求められるなかで、今後は持続可能な医療体制を確立し、より多くの患者が視力を取り戻せるようにしていくことが重要である。国内外の研究・臨床の成果を取り入れた、角膜移植のさらなる発展が望まれる。読者の皆様には、本特集を角膜移植の現状の整理と知識のアップデートにお役立ていただければ幸いです。

*Kazuno Negishi 慶應義塾大学医学部眼科学教室